

4 3 期環境経営レポート

フジセイコー株式会社

レポートの対象期間：2023年6月～2024年5月

発行日：2024年08月16日

《目次》

挨拶	P1
1、環境方針	P1
2、事業概要	P2
3、対象範囲	P2
4、EA21 推進体制	P3
5、環境項目と環境経営計画	P4
6、中期目標	P5
7、環境目標と達成状況及び取り組みの評価と結果	P6～7
8、環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P8
9、代表者による全体の評価と見直しの結果	P8

◇ご挨拶

私たちフジセイコーは、半導体製造に欠かせないシリコンや石英ガラスといった加工が難しいと言われる素材の加工メーカーとして1981年に誕生した会社です。以来、40年以上にわたり半導体産業の発展とともに成長を続けてまいりました。

原動力は人の英知によって、経営理念にも掲げている「モノ作りに独自性と革新性を発揮」してきたこと。それが『切る・削る・磨く』を極限まで追求した技術力と、一貫生産を可能にした設備力に結実しています。

いま半導体を取り巻く環境はAIやIoTなど技術革新が加速しています。当社では、これまで培った信用・信頼・協調の精神をしっかりと受け継ぐとともに、次の時代に向けた新しい体制づくりに取り組むことで、半導体産業のさらなる発展に貢献してまいります。

このたび、43期の環境活動レポートを作成いたしました。ご高覧いただければ幸いです。

フジセイコー株式会社

代表取締役社長 渡辺竜太

1. 環境方針

【経営理念】

当社は、信用・信頼・協調を重んじ、常に感謝の気持ちを持って、地域社会に貢献し、輝く未来の産業発展の為、技術の蓄積と人材育成に努め、社員の幸福と企業繁栄に全力を尽くします。

当社は、地球環境保全を最優先課題と認識し、環境に配慮した企業経営に取り組みます。

【環境指針】

当社は、切断・研削・ラップ・研磨加工の各プロセスにおいて、下記目標を設定し、自然の豊かさをいつまでも維持できる環境活動に取り組みます。

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物削減を行うことにより環境への負荷の低減に努めます。
2. 環境に負荷を与えない化学物質の選択に努めます。
3. 事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、可能な範囲で環境目標を設定。これを実行すると共に定期的な見直しを行い、環境活動の継続的改善に努めます。
4. 環境に関連する法規、規制、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

制定日 2005年 8月20日

改定日 2023年 7月26日

フジセイコー株式会社

代表取締役社長 渡辺竜太

2. 事業概要

1. 事業所名及び代表者名

フジセイコー株式会社

代表取締役社長 渡辺竜太

2. 工場・所在地

【本社工場】

〒379-0135 群馬県安中市郷原939-1

【磯部工場】

〒379-0126 群馬県安中市西上磯部771-1

3. 環境関係の責任者及び担当者の連絡先

環境管理責任者：本社工場長 多胡重利

担当者：EA21 推進事務局 高垣健一、山岸和昭、種田精五

連絡先 電話 027-385-3641

FAX 027-385-3577

ホームページ URL <https://www.fj-seiko.co.jp>

4. 事業の内容

硬質脆性素材（シリコン・石英ガラス・セラミックス等）の切断・研削・ラップ・研磨加工

5. 事業規模

資本金：9000万円

	従業員数	敷地面積	床面積
本社工場	80人	13,882m ²	2,820m ²
磯部工場	14人	4,076m ²	1,437m ²
合計	94人	17,958m ²	4,257m ²

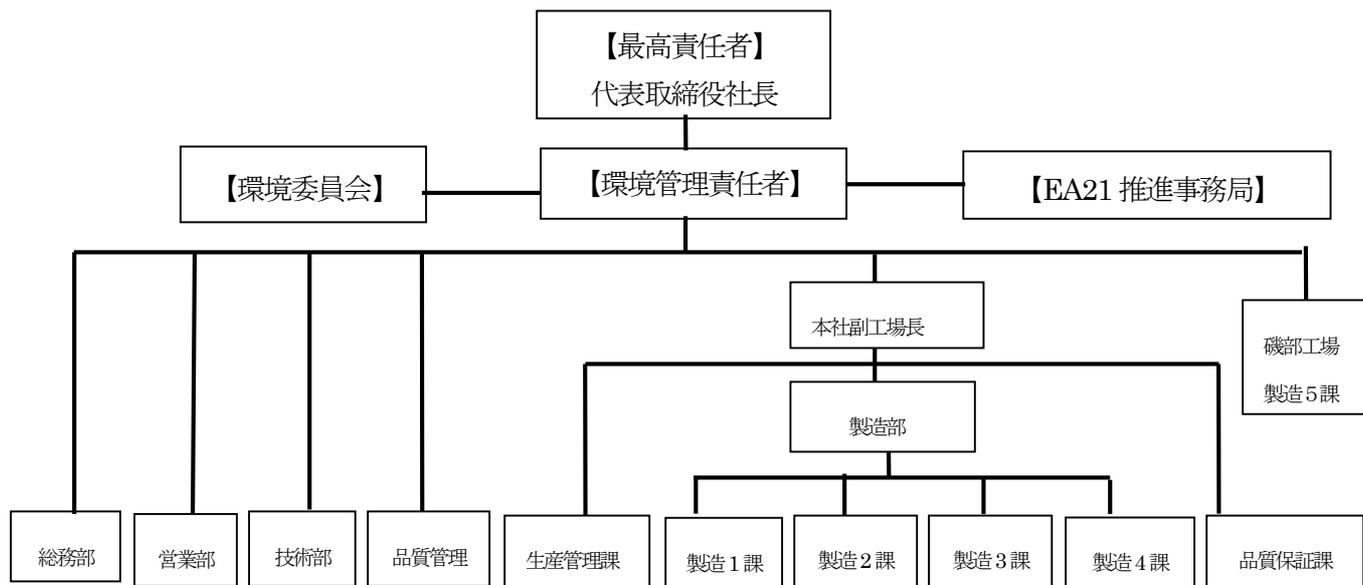
6. 事業年度

6月～5月

3. 対象範囲

フジセイコー株式会社 全組織、全活動

4、EA21 推進体制



職 名	役 割
最高責任者	<p>【代表取締役社長 渡辺竜太】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境方針を定め、誓約する ・環境管理責任者等の責任者の任命及び責任と権限を明示する ・EMS構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備。技術等）の準備を行う。 ・EMS全体の構築・運用に関する情報を収集し、システム全体の評価と見直しを行い、必要に応じて改訂の指示を行う。
環境管理責任者	<p>【本社工場長 多胡重利】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境方針を全従業員に周知徹底を行う。 ・環境負荷と環境活動の状況の把握及び評価を行い、目的達成のために環境委員会を運営する。 ・EMSの構築・運用を円滑に行い、見直しに関する情報を社長に提供する
EA21 推進事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐を行い、EMSに関する実務全般を所管する。
環境委員	<ul style="list-style-type: none"> ・部門内におけるEMSの運用及び管理を行い、人材教育、育成を行いパフォーマンスの向上を図る。
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者、部門長、事務局が出席し、環境管理責任者が召集する。 ・環境活動計画の進捗状況等の報告及び協議を行う。 ・是正処置を受けた部門は翌月報告を行う ・必要に応じ、環境管理責任者が認めた者は出席できる

5、環境項目と環境経営計画

環境項目	実施項目	実施内容
二酸化炭素排出量の削減	空調温度の適温化 フィルター清掃	各部屋のエアコンの設定温度を夏場（7～9月）と冬場（1～3月）で決め、運用します。 空調機のフィルターを年2回清掃します。
	節電活動	水銀灯をLEDに交換しました。 一部エア配管をループ化しました。 エア漏れ配管の補修をしました。
	LPGの削減	給湯温度の管理
	デマンド管理	目標電力を設定し、目標を超えそうになった場合に警報を鳴らし、手順書に従い最大需要電力を抑える行動を実施します。
廃棄物のリサイクル化と削減	廃棄物処理方法の変更	焼却処理以外を検討します。
	切削液の長寿命化	切削液に含まれる削りカスを取り除くこと
	廃酸の削減	使用後の酸の利用方法等の情報を収集する
	汚泥の削減	汚泥と水分の分離
水資源投入量の削減	水の無駄遣いチェック	毎日の水道使用量を調査します。 職場巡視にて、無駄遣いチェックをします。
	水道配管からの漏洩	設備の点検を実施します。
化学物質の削減	対象化学物質の代替品への移行	代替品を選定し、テストを実施し、結果問題無い物は、随時切り替えていきます。
本業エコ	生産性向上	最新設備導入による生産性アップの検討
		加工工程の改善
		作業レイアウトの見直し

6. 中期目標

39、40、41期の3期分の平均を基準とて、中期（向こう3年間）の環境経営目標を設定致しました。
また目標値として総量及び原単位（百万円当たり）を設定致しました。

項目		単位	基準値	42期目標 △1%	43期目標 △2%	44期目標 △3%
二酸化炭素 排出量	総量	t-CO2	2,559	2,533	2,508	2,482
	原単位	t-CO2	1.41	1.40	1.39	1.37
	電力使用量	kg-CO2	1,813,692	1,795,556	1,777,419	1,759,282
	ガソリン	kg-CO2	46,098	45,637	45,176	44,715
	軽油	kg-CO2	9,107.9	9,017	8,926	8,835
	灯油	kg-CO2	32,421	32,097	31,773	31,448
	LPガス	kg-CO2	658,046	651,466	644,885	638,305
廃棄物排出量	総量	t	639.7	633.3	626.9	620.5
	原単位	t	0.37	0.366	0.363	0.359
	一般ごみ	t	9.15	9.06	8.97	8.88
	ダンボール	t	0.845	0.84	0.83	0.82
	産業廃棄物	t	672.92	666.19	659.46	652.73
	リサイクル率	%	76	77	78	79
水使用量	総量	m ³	37,351	36,977	36,604	36,230
	原単位	m ³	20.4	20.2	20.0	19.8
	本社純水	m ³	15,633	15,477	15,320	15,164
	本社純水以外	m ³	19,381	19,187	18,994	18,800
	磯部工場	m ³	2,337	2,314	2,290	2,267
化学物質	総量	kg	11,659	11,542	11,425	11,309
	原単位	kg	6.34	6.28	6.21	6.15
本業エコ		%	100	101	102	103

※ 電力使用量につきましては二酸化炭素排出係数を 2017 年度東京電力エナジーパートナー(株) 実績「0.475 k g-CO2/k w h」を使用しております。

7. 1 4 3 期環境経営目標及びその実績

数値目標：○達成 ×未達成

環境目的	環境目標		基準値	4 3 期	
				目標値	実績値
二酸化炭素排出量の削減 (東京電力 2017 年度排出係数 : 0.475)	総量削減	トン-CO2	2,559	2,508	2,097
		基準年比	100%	98%	81.9%
		数値目標			○
	原単位削減	トン/百万円	1.41	1.38	1.77
		基準年比	100%	98%	126%
		数値目標			×
廃棄物のリサイクル化と削減	リサイクル率向上	%	76	74	91
		基準年比	100%	2 ポイント UP	15 ポイント UP
		数値目標			○
	一般廃棄物の削減	トン	9.15	8.97	6.29
		基準年比		98%	68.7%
		数値目標			○
	ダンボール廃棄の削減	トン	0.845	0.82	1.68
		基準年比		98%	199%
		数値目標			×
	産業廃棄物の削減	トン	673	659	504
		基準年比		98%	74.9%
		数値目標			○
	産業廃棄物の削減 (原単位)	トン/百万円	0.370	0.36	0.43
		基準年比		98%	116%
		数値目標			×
水資源投入量の削減	総量削減	m ³	37,351	36,604	28,666
		基準年比		98%	76.7%
		数値目標			○
	原単位削減	m ³ /百万円	20.4	20.1	24.2
		基準年比		99%	119%
		数値目標			×
化学物質の削減	化学物質の削減	k g	11,659	11,425	6040
		基準年比		98%	51.8%
		数値目標			○
本業エコ	時間当たりの生産性向上	%	100	102	64
		基準年比		102%	64%
		数値目標			×

7.2 環境経営目標の取り組みの結果と評価

環境項目	取り組みの結果	評価と次年度の方向性
二酸化炭素排出量の削減	総量については、基準年（39、40、41期の平均）比で18.1%減少となり、売上比（原単位）では26%増になりました。	二酸化炭素総量減少しているが、原単位では増加しています。売上減で電気やガスの使用効率を悪くしているようです。固定的に使用している電気やガスを削減する方法を検討していきます。
廃棄物のリサイクル化と削減	廃棄物総量は基準年比で25%減となり、売上比（原単位）では16%増となりました。汚泥で5割ほど占めています。	廃棄物量も減少しましたが、原単位では増加しているため、電気やガスと同様、加工に合わせた丁度よい廃棄量ということができるのか検討する必要があります。汚泥が発生が、どの部署からどのくらい出ているか調査します。
水資源投入量の削減	水資源投入量は基準年比で総量において23.3%減少し、売上比（原単位）で19%増加しております。	水資源も原単位で増加しています。売り上げが減少すると水使用の効率が悪くなっています。固定的に使用している水があるか工場巡視にて調査していきます。
化学物質の削減	化学物質は基準年比で48.2%減少しております。水処理凝集剤の塩化第二鉄をポリ塩化アルミニウムへ変更したことが大きな削減につながりました。	環境への負荷の小さい代替品を選定、テストを繰り返し、削減に努めていきます。
本業エコ	時間当たりの生産性が、基準年比で36%減少しました。	加工数が減ると工程の切替の手間が多くなり、生産性が落ちてしまっていると思われます。自動化や加工時間の短縮を検討していきます。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1) 当社適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	該当する活動	遵守評価
水質汚濁防止法	排水処理施設の維持管理	○
騒音規正法	コンプレッサー騒音の測定	○
振動規正法	コンプレッサー振動の測定	○
PRTR 法	指定化学物質の排出・移動量の届出	○
消防法	消防計画	○
廃棄物処理法	一般廃棄物・産業廃棄物の排出	○
毒物劇物取締法	毒物劇物の保管・取扱の管理	○
浄化槽法	浄化槽の保守点検	○
労働安全衛生法	有害物質・化学物質の取扱	○
フロン排出抑制法	室外機の定期点検	○

- 2) 「環境に関連する法規制の遵守」については、関係機関等からの違反についての指摘等はありませんでした。また、訴訟等もありませんでした。
- 3) 外部からの苦情等はありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直しの結果

1) 評価

問題点を先送りにしない考え方が徐々に浸透してきているようにみえます。問題毎の優先順位を決め、いつまでに何をするという期限管理を念頭に活動していくようにしてください。

2) 見直しの結果

照明の LED 化やハイブリット車や高効率モーターなど、使用しているエネルギーが省エネタイプに変更できるか検討する。

加工に携わる人員を減らすことを目的とし、導入を計画している機械の設計をすすめていきます。また、機械加工時間や人手作業時間の短縮等、効率よく品物を作る方法を検討します。